かいはつ

特殊教育推進協議会　　平成4年3月3日　　26号

題字　男川小6年

生活を担う実感

―社会自立にむけて―

常磐南小学校長
青木宏氏

心身に障害をもっているK子さんは、八年間、熱があっても欠勤することなく、喜んで働いております。

彼女のこうした働く意欲を駆り立てているものは何でしょうか。

彼女は入社して間もなく、休憩時に社内の標示類のはがれや消えかかっている字を誰から言われることもなく直し始めました。

彼女の行いに同僚はもちろん多くの人々の目が止まり、「Kちゃんありがとう」と、感謝されるまでになりました。さらに、彼女の行いに感動した上司から仕事（部品の組立）の外に社内の標示類の管理を任せられることになりました。

彼女は任せられたその日から字を書く練習に取り組みましたが、複雑な字形、読めない漢字等で悪戦苦闘の練習でした。練習を始めた当初は両親が字形を乱して書き、彼女が一番上手になるように配慮して彼女の意欲を引き出しました。こうした両親の温かい応援のもとで、少しずつ上達していきました。

彼女の書いた標示類を見て、会社の誰しもが彼女の上達ぶりに目を見張り、彼女の会社における存在を強く認識していきました。

彼女にとって会社の多くの人々から認められ、会社に役立っているという実感が彼女の働く意欲を駆り立てているのです。

学校生活、家庭生活で子供の発想が生き、集団生活の一部を担っているという実感のもてる生活の営みこそ、社会自立の大きな力となることを、彼女は身をもって私に教えてくれました。

市特殊学級 進路指導委員会

―今年度の動向―

三年目を迎えた進路指導委員会も三回目の委員会を残すのみとなりました。今年度の主な活動をまとめてみます。

まず、八月八・十日に行なわれた東海北陸岡崎大会にて、全体会で進路指導委員会の概要・分科会で委員会と学校との活動の結びつきについても発表がありました。他の地区では行なわれていない活動であったため、たいへん好評を得ることができました。

また、工場・社会見学会が二月四日行なわれました。生徒・保護者に就職に対する意識づけを目的としています。午前中は、クラタ産業・K・Kトヨトミ・ユニチカの三ヵ所に分かれて工場見学をしました。午後から、生徒は集まったいろいろな学校との交流会・保護者は元安城養護学校長伊藤敏孝先生の講演を聞きました。いろいろな生徒の事例を話されました。その中で、就職させたのちにも親が家庭で十分世話をしなくてはならない生徒の話を聞き、就職した後での指導の必要性を知ることができました。

また、三年間のまとめとして、「手引き書」を作っています。これは、市内特殊学級の先生が過去のいろいろな生徒を通しての実践および、どのような手続きをしたらよいのかが書かれています。この「手引き書」は、今後指導していく上で大いに役立つことと思っています。

最後に、今年度の進路指導委員会の成果としては、進路を決めていく段階で、組織を利用することによって就職先を早くから決めていけたことがあげられます。これも、職業安定所の方また他校の先生の援助があったからこそできたことです。今年度は、昨年の十八名から二十八名と三年生が多かったわけですが、スムーズに生徒の適性に合ったところへ進路指導をすることができました。

感懐

城北中　高崎嘉之

中学校での教師生活三十八年、様々な生徒との出合いがあった。とりわけ、特殊学級の生徒に感懐を抱いている。

特殊学級との出合いは、およそ二十年前である。学級の成員十二名（男八名・女四名）。全員一年生の促進学級であった。学級歌発表会、学級対抗競技、生徒会活動など四十余名の普通学級と肩を並べる組織だった。教師のあらゆる心配をよそに、生徒たちは伸び伸びしており意欲的に諸活動に取り組んだ。学級への参観者があっても生徒たちが応対し、同席の記憶は余りない。

ところで、秋の運動会にG男は百米走、幅跳び、学級対抗リレーの三種目に出場した。運動能力に恵まれたG男は三種目に入賞する、無勢の学級を盛り上げ、皆で歓喜、応援したことを思い出す。結果、敢闘賞を閉会式で受けた。代表はG男になった。生徒たちは喜びを満面に表わした。ところが、G男が教室へ入って来るなり賞状をこっぱに破ってしまった。誰も取り止めることのできない瞬く間の出来事であった。気丈夫なS子は涙ながら「皆で頑張った賞じゃない」「G君の賞じゃないよ」といった。G男は「この賞は賞状のないクラスにくれるんだ。俺は慰めなんかいらん。賞状などいらん」といい賞状を床に捨てた。しばらく教室に沈黙が続く。運動の不得手なY子は「先生たるいね」といいながら賞状をセロテープで繕う。明るいN男の掛け声で賞状は額に納まった。広い教室の十二人の模様は大きくも、また小さくも見えた。私は生徒の気持ちを納得したような傍観者でいたらしい。

すでに二児の母になっているY子らから級友の消息を聞くたびにこの記憶が蘇えってくる。

特殊学級を担当して十二年、手探りの状況はまだ続いている。明るく、活動的で、誠実に生きる生徒の姿は、今も昔も変わっていない。この生徒たちとこの日まで、机を並べて生活し、学習できたことを何よりの喜びとしている。生徒たちには大変な迷惑を掛けただろうと思いつつ感謝をしている。

学級スナップ

交流会

矢北小　たんぽぽ組

本校には、ペルーやブラジルから来た子供たちが数人いる。その子供たちと学級の子供たちとで交流会を持った。

「生地を四十gに分けるよ」

「四十g？」

「よ・ん・じゅう」

とはかりの針の先を見つめながらつぶやいている。ことばのない自閉児のY児も、ペルーから来たI児も、ぷつぷつ……。

その後、焼き上がったパタロールパンやレースンパンで乾杯。頬一杯、口にしてパンをほうばっている顔とかお。

私の教室日記
ハウマッチパニック

美川中　中根　久治

特殊学級の英語を週二時間担当することになった。英語は知的な学習には違いないが、言葉を使う楽しい学習である。普通学級での授業と比べて、多くの違いを発見し、しかも言語習得の方法について再認識させられた思いである。

一、授業は英語で進めるべきだ。

授業で用いる英語は動作を伴う表現が多い。これらを中心に九〇％は英語で進めた。繰り返しの訓練で、理解させることができ、子供に与える喜びが大きい。

二、褒め言葉、励まし言葉は必ず必要である。

目標に対してどれだけマイナスかをいつも生徒に伝えては英語嫌いを作ってきた反省をするならば褒め言葉、励まし言葉によるプラスの評価に切り替えるべきである。

特殊学級では競争意識による励ましは通用しない。

三、知的水準に合った教材を選ぶべきである。

「お店やさんごっこ」で「買い物」の表現を学習させようとしたところ、二桁の足し算と引き算の苦手な彼らには、まるで通用しない授業となってしまい、How much ?は大失敗をした。

その教材が生徒に合ったものかどうかをよく判断し、教材を消化できるような準備が必要である。

四、個性を大切にすべきである。

生徒はそれぞれの個性を普通学級の生徒より明らかに表現する。彼らの個性を生かさないと授業は成立しないほどである。授業ではそれぞれが主役になれる場を作ることが成功の秘訣である。

五、ゲームは競争抜きで、楽しくすべきだ。

教科書以外にはカードを多く利用する。「カルタとり」、「絵合わせ」などとゲーム形式で単語や動作表現を音と文字と絵を結びつける。得点を競うのでなく、得点できたという成就感を大切にしたルールが前提になる。

六、成育環境は無視すべきでない。

生徒は日本語をはっきりと言うことを指導し続けられている。そのためにゆっくりとていねいに話す習慣が身につき、英語のリズムに合わせることが指導上の一番の悩みとなっている。

交流会ばんざい！

今年度も市内各小中学校で学校間の交流会が盛んに行なわれました。仲良し学校同志の交流、中学校同志の合同作業活動を目的にしたもの、将来の中学校進学を少しでも円滑にする小学校とその地区の中学校との交流などさまざまな目的で進められています。

次に、小学校五校、中学校四校が一同に会した「山の家交流会」を実践の一例として紹介します。

みんなが主役　山の家交流会

昨年に引き続き本年度も「山の家交流会」を行ないました。今年は、小学生もより主体的に関わる会にしようと、「元気まつり」の中で参加校すべてが店を出すことにしました。

各校の店は、子どもたちの能力や学校の実情を考慮して趣向を凝らしたものでした。各校とも売り買いの練習をよくしてきており、当日はとても盛況となりました。

●主なプログラム

・十月十四日（金）

午前・始めの会（ゲームなど）

・「元気まつり」

午後・人形劇、歌

・さようなら会（小学生帰宅）

・夕食作り（以後中学のみ）

・中学校交流会（ハンドベル・きもだめし）

・十月十五日（土）

・朝食作り、おたのしみ会

●参加した子どもの声から

ぼくは、きっさてんをやりました。ぼくは、お金をちゃんとレジの計算でやりました。ぼくは、「こはい」の時にお金がわかりませんでした。……中略……ぼくは、むずかしいのがわかってきました。

ぼくは、たいへんでした。また、山の家に行きたいな。（井田四年）

県外研修に参加して

福岡小　蜂須賀　隆

今回の目的地は、来年度に開校予定の愛知県高等養護学校の様子を事前に知るため、先進校といわれる横浜市立高等養護学校を選びました。

市内の静かな住宅地を抜けると文教地区があり、その中に学校は位置しています。

他府県の高等養護学校と同じように軽度の障害を持った生徒が在籍しており、作業学習を主にした教育課程を編成しています。

特色ある形態として、一カ月程度の長期校内宿泊があり、一日を決められた計画に従って作業を実施しています。

また流れから布団の上げ下ろしまでと日常生活に欠かせない基本的な生活様式の習得・確認を実施しています。これらは、将来グループホーム生活を送る際、貴重な体験となります。就職率も高く、九十％の生徒が就職します。受注作業学習では、八十万円もの収益を上げ、市当局に還元したことも大きな驚きでした。

最後に、研修に配慮して頂いた各位にお礼申し上げます。

アメリカ見たまま

—海外研修印象記—

竜南中　野村　正文
運尺小　小椋　弘子

愛知県教職員海外研修団として、十月十一日から十一月二日まで、二十三日間の日程で、アメリカA班として野村、小椋の二名が参加の機会を得た。主に、ロサンゼルス、サンフランシスコの二都市に滞在し、三十余りの小・中・高等学校や教育諸機関の研修、見学をした。

おおらかさと無頓着さと

この二つを、あの広大な大陸は要求している。五大湖やナイアガラの滝を初め、大自然も雄大なら、スーパーの肉やビールもでっかい。さらに、人々の心もビッグ。風俗習慣・言語・価値判断など、様々な人々が共存するには、相手に危害を加えないという線さえ守れば、あとは丸ごと認め合うことなのではないか。それが、懐の深さなのかもしれない。

見て・聞いて —学校教育—

教育制度一つとっても、州毎に多様なので「アメリカでは」とは表現できない。ただ、個に応じた——という考えは強い。一教室で教材を異にして、コーナー毎に学習する授業が多かった。中・高校は一斉授業が増すようだ。また、コンピュータによるドリル学習も取り入れられていた。

典型的な個への対応として、一人の聴覚障害の女生徒に、専属で委員会派遣の手話通訳が付いた授業場面を見た。また、車椅子の子どもの入学に合わせて、エレベーターの新設工事も見掛けた。

学校によっては、英語以外で生活している子どもが、一割以上の所もある。白人・黒人の居住区の違いから、巧みに織り混ぜた学区編成と、通学のためのバスの手配も、英語教育やドラッグ（麻薬）など、追放運動と共に、根深い問題となっているが、真正面から取り組んでいる姿が見られた。

見て・聞いて —特殊教育—

特別なカリキュラムによる学習が必要な子——という意味で、障害のある子も、特に能力が優れている子も、特殊教育をうける権利があると考えられている。

授業の形態は、リソースルームへの通級の場合が多い。特別な研修を積んだリソースの教師は、専門家として認められる。無論、特殊学級としての運営例も多い。特殊学級の子どもたちも通級している子どもたちも屈託がない。

障害を持った子どもの就学は、各種の検査（知能、社会生活能力、学力）、行動特性、運動機能、医学的検査などを基に、教師やカウンセラーや保護者等で話し合いを重ね、教育委員会が決定する。今、日本で問題となりつつある「L」児の判定も、同様である。

南部の人達の心にふれて

サザンホスピタルとされる南部の人達と過ごした十日間余りは、心の残るものであった。学校訪問における配慮（教育委員会、各学校）やホテルの従業員の献身的な態度の心配りは、アメリカ国民としての代表選手のようであった。

キム先生のクラスルーム

ライオンズクラブ招待 社会見学

井田小　玉腰　久恵

平成二年十月十六日（火）、秋の心地よいさらかな日差しを受けて、市内特殊学級の児童、九十一名は豊橋市動物園で、楽しい一日をすごしました。

岡崎ライオンズクラブの御厚意による招待社会見学の日です。

朝、九時半に、十王公園で結団式を終え、ライオンズのおじさんや、教育委員会の先生方に見送られて、五台のバスに分乗した子供たちの顔は、笑顔ではち切れそうでした。はずかしそうに自己紹介をしたり、元気一杯に校歌を歌うなどして、学校間の交流を深めることもできました。

動物園内は緑に恵まれ、大型乗り物や、百二十四種類の珍しい動物が、ゆったりと展示されていました。動物の名前を一つ一つメモする子、カバが水から顔をだすまで、じっと水面を見つめる子、猿の前で楽しそうにお弁当を食べると、本来の子供らしい姿が、いたる所に見受けられました。

一日が無事にすぎて安どの胸をなでおろした時、秋の空の様に澄んだ九十一名の心に、夢をうえて下さったライオンズの方々に、感謝する気持で一杯になりました。

お礼の言葉

井田小　父兄

今年も、十月十六日、岡崎ライオンズクラブの皆様のおかげで、豊橋動物園へ招待社会見学旅行に行くことができまして、楽しい一日をすごさせて頂きました。

おいしいお弁当と、おやつをいっぱい食べて、子供たちは、とっても嬉しそうでした。ライオン、キリン、サルを見て、大きなびっくりしたり、観覧車や、メリーゴーランドに乗って、楽しそうな子供を見ていると、私まで楽しくなります。

特殊学級の子供たちを理解して暖かい心をかけて下さいまして、本当にありがとうございます。

心から感謝致しております。